

しせき 史跡 陸奥国分寺跡発掘調査（第36次）遺跡説明会 資料
仙台市教育委員会文化財課
令和8年8月8日（土）

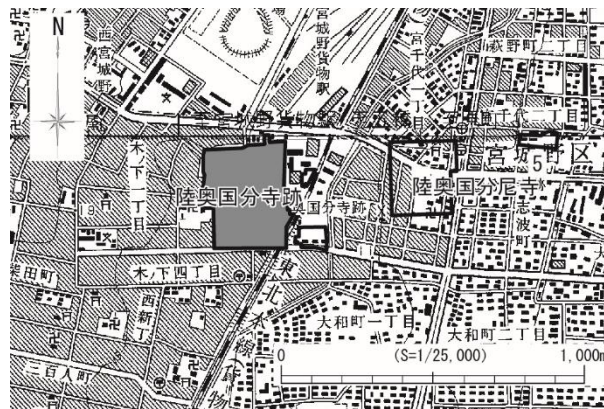


1 調査概要

遺跡名	陸奥国分寺跡	所在地	仙台市若林区木ノ下3丁目
調査原因	国庫補助による遺構確認調査	調査面積	1区：約150㎡ 2区：約103㎡
調査主体	仙台市教育委員会（担当：文化財課）	調査期間	令和8年6月～8月

2 陸奥国分寺跡とは

陸奥国分寺跡は天平13（741）年、聖武天皇の「詔」によって鎮護国家のため全国60余国に建立された寺院のひとつで、大正11（1922）年に国史跡に指定されました。貞観11（869）年の地震によって被害を受け、大規模な改修が行われたことがわかっています。慶長12（1607）年に伊達政宗によって再興され、現在の薬師堂が建てられました。また、東に約500m離れたところには陸奥国分尼寺があります。



① 陸奥国分寺跡と周辺の遺跡

3 これまでの発掘調査

陸奥国分寺跡の発掘調査は、昭和30～34（1955～1959）年に寺院を構成する建物（伽藍）配置究明のため伊東信雄東北大学教授を団長とする学術調査が実施され、昭和47（1972）年以降は仙台市教育委員会による調査が行われています。

これらの調査により、南半部では南大門、中門、金堂、講堂、僧房が南北一直線に並び、中門と金堂は廻廊でつながれていることが明らかとなりました。一方、北半部では不明な部分が多く、昨年から調査を実施しています。なお、令和3（2021）年から寺院北辺の確認を目的とした発掘調査を実施し、令和6年に北辺となる築地を確認しています。



② 陸奥国分寺跡の復元模型
（仙台市史編さん委員会1995『仙台市史』
特別編2 考古資料より転載）

・お寺の建物

陸奥国分寺の主要な建物としては、門、金堂（仏像を安置した建物）、講堂（僧侶が読経や教義を学ぶ建物）、僧房（僧侶が日常生活を送った建物）、七重塔、経楼（経典を保管する建物）、鐘楼（鐘を突くお堂）などがあったと考えられています。また東西南北の四方は築地塀と溝によって区画されていました。



③ 調査区位置図

・陸奥国分寺の長さの基準が明らかに

国分寺が造られた奈良時代では長さをはかる単位として「尺」がありました。「小尺」と「大尺」の2種類があり、1尺あたりの長さは小尺＝約29.6cm、大尺＝約35.5cmです。

陸奥国分寺の大きさが東西約240m、南北約270mであることから、小尺を基準に造られたと考えられます。

4 今回の調査成果

昨年度の調査で掘立柱建物の一部分が検出されたため、その建物跡の全容を明らかにすることを目的として発掘調査を実施しました。

1区、2区に分けて調査を行ったところ、それぞれ1棟ずつ建物跡が見つかりました。



④ 調査区全体の様子（南から）
青⇒昨年度調査区 赤⇒今年度調査区

〇1区

建物跡1

この建物は、東西約6.6m、南北約12mの南北に長い建物です。南側には土^ど廂^{びし}があり、その奥には土間が設けられていました。一方、建物の奥の部分は柱痕跡が2つずつあることから、床板が張られていたと考えられます。また、多くの柱跡から焼けた土が見つかっており、この建物は火災によって焼失したことがわかりました。

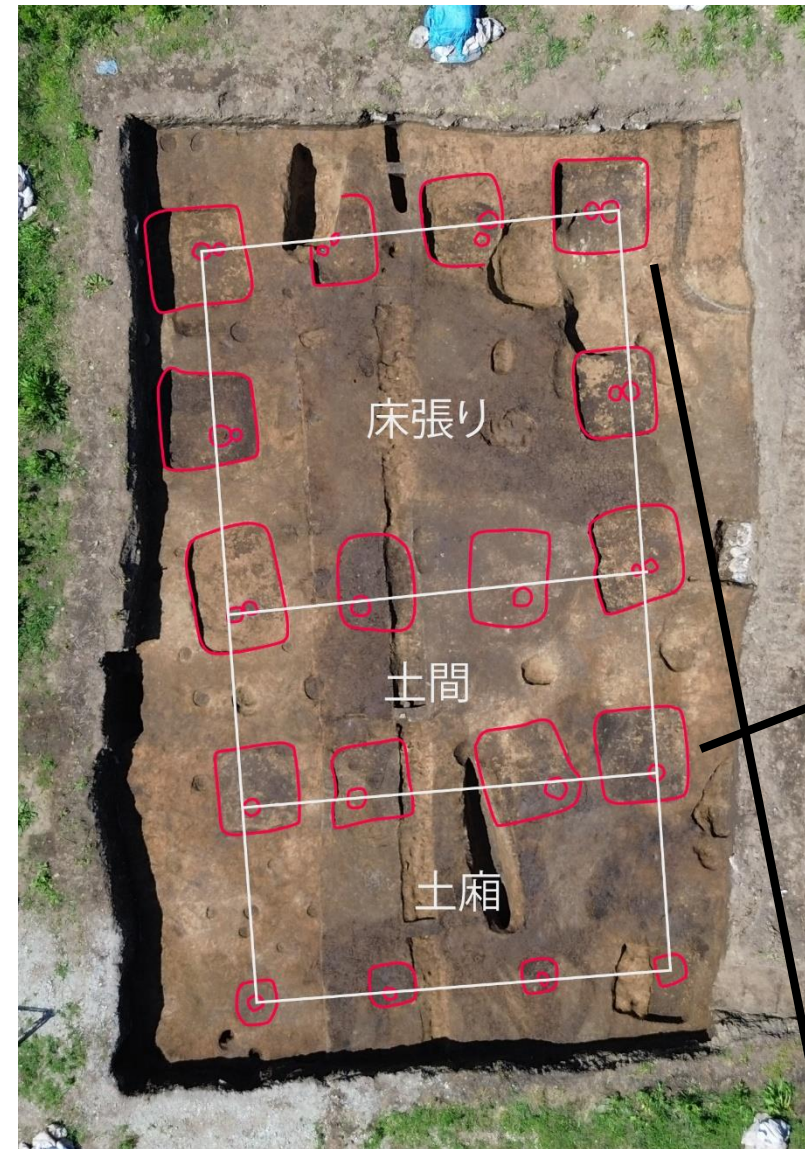
建物の内部が「土間」と「床張り」の空間に分かれていることや柱の配置の特徴から、仏像を安置する仏堂のような建物、あるいは僧侶の生活や活動を支える施設であった可能性などが考えられます。

〇2区

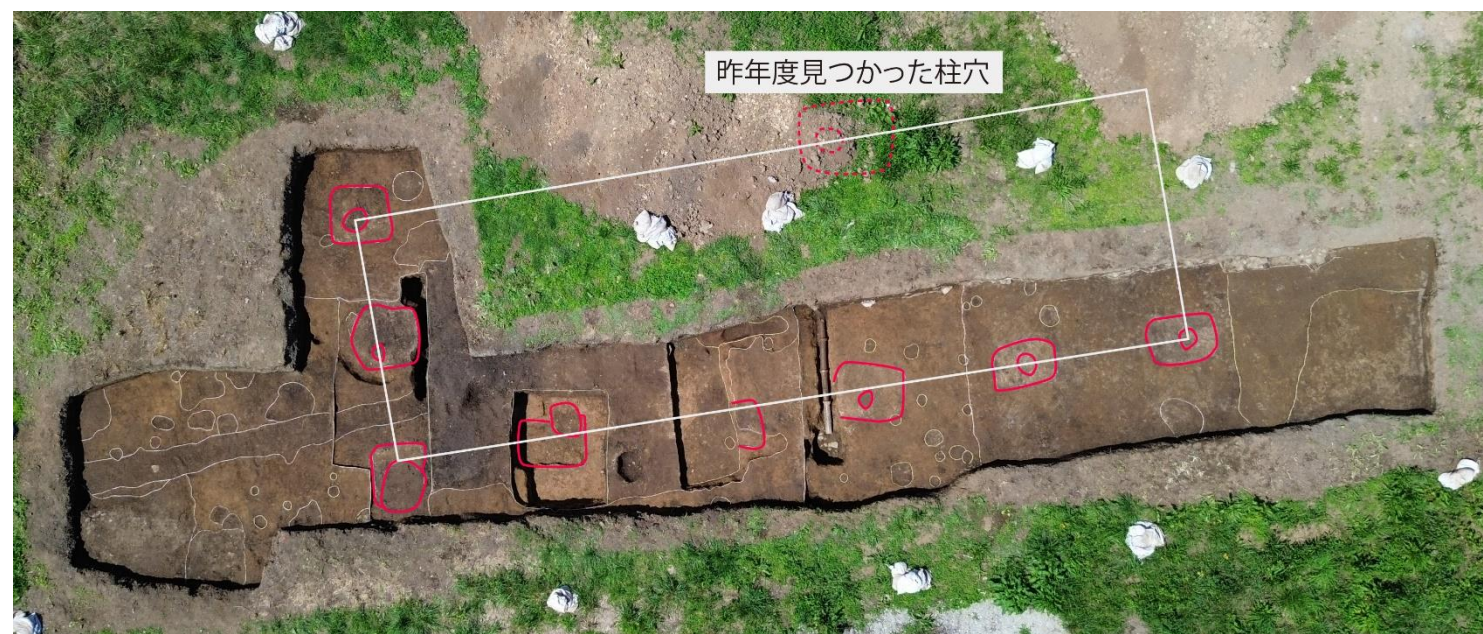
建物跡2

この建物は、東西約15m、南北約4.5mの細長い建物です。柱跡の一部には火災の痕跡が残されており、この建物も焼失したと考えられます。

国分寺の主要な建物群の北東側で見つかったことから、寺の運営に関わる施設であった可能性があります。



⑤ 1区建物跡（上が北）



⑥ 2区建物跡（上が北）

5 まとめ

昨年度の調査で見つかった建物跡の続きを調査し、2棟の建物跡の全容を確認しました。掘り方が1m以上と大きいことから、いずれも律令国家の最盛期に建てられた建物であった可能性があります。

特に1区で見つかった建物跡は構造上、これまでに例のない特徴をもち、寺院北部でどのような機能を果たしていたのかを考えるうえで重要な発見です。

・掘り方とは

柱を立てる時に掘った穴のことです。柱を立てる際には、一度大きめの穴を掘り、そこに柱を立て、周りを埋戻します。柱は腐ってしまいましたが、発掘調査ではその痕跡が見つかります。



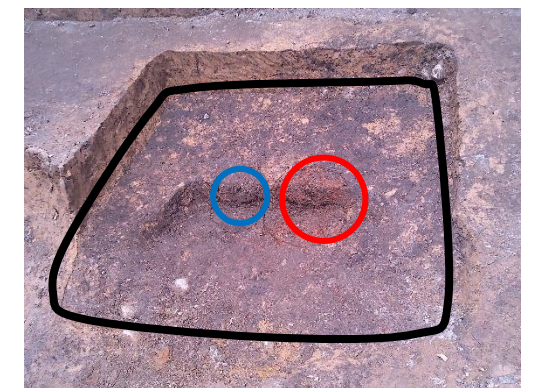
⑦ 掘り方の様子

※赤線⇒掘り方 青線⇒柱痕跡

・柱痕跡が2つ？

今回の調査では1つの掘り方の中に2つの柱痕跡があるものが見つかりました。1つは掘り方の外側にあり、もう1つは掘り方の内側にあります。外側の柱痕跡は大きく、建物全体を支えており、内側の小さい柱痕跡は床を支える柱と考えられます。

よって今回1区で見つかった建物跡の北側は、柱痕跡が2つあるため、床が張られていたと考えられます。



⑧ 柱痕跡が2つある掘り方

※赤線⇒柱痕跡 青線⇒床を支えていた柱痕跡